

天 使

Tenshi College

vol.11 MARCH 2006

助産教育 について

助産師になるためにはより高度で実践的な教育が必要とされる——、そうした思いとちょうど重なるかたちで文部科学省が「専門職大学院」制度を立ち上げた2004年4月。天使大学は、日本で初めてにして唯一の「助産師」を養成するための専門職大学院、助産研究科助産専攻を開設しました。ハイレベルな助産師を目指して、全国津々浦々から集まつた1回生は、夜を日に継いで助産の勉強に取り組み、助産の難しさ、深さ、やりがいを学びました。そして彼女たちはこの春、1回生として修了を迎えます。

高い理想と創意工夫をもつて臨んだ2年間の助産教育はどのようなものだったのか、今一度振り返ってみます。

日本初の助産師養成のための専門職大学院に 初めての修了生が出ます



学長・助産研究科長 近藤 潤子

本大学院の特徴的な教育の成果

学長・助産研究科長 近藤 潤子

理論はもとより実践重視の教育内容

専門職大学院での2年間の助産教育は、理論はもとより実践を重視するものでした。まず、基礎助産、助産実践基礎科目では、密度の濃い講義時間の一方でグループワークや自己学習、課題レポートに追われるゆとりの少ない日々でした。しかし、わが国の近代母子保健の歴史を背負つてこられた松本清一先生、助産の倫理や国際助産学では前ICM(国際助産師連盟)理事長のジョイス・トンプソン教授、米国の助産師教育の確立に関わったこれらリリー・シャ教授はじめ、国内外から各分野一流の講師陣の講義や飛び交う英語に、教員ともども十分な刺激を受けました。展開・先端科目では、「国際助産学特論」でICM大

会に参加し、世界の助産師のパワーに接しました。また、「性教育特論」では中学校での性教育を実践した院生から「手応えを感じた」との声が聞かれました。

充実した実習で多様な事例を経験

また、助産のコアである周産期の実習では、1年次の病院実習(22週間)で9~10例の分娩件数を満たし、2年次の助産院でのインターナシップ実習(7週間)ではさらに平均5件のフリースタイルを含む自然分娩を経験しました。その他、妊娠期の健診・保健指導を平均50件、産褥期の母子ケアを16例経験しています。これだけのケースを学生時代に経験することで、分娩介助

技術の会陰の伸展性ひとつを例に挙げても、産婦の身体・心理・社会的背景が個人差として影響すること、一方で助産師のケア・介助技術が会陰損傷の有無と程度を左右することを、院生は身をもって体験しました。また、現場で働く大先輩から多くのことを学習して、助産の技の一端ではありますか感じ取ってきました。従来の教育では病院一施設に限られていた助産師としての視野が、院生では助産院での実習体験を通して、日本の助産師活動から、世界へと広がっています。



インターナシップでは生活の中での自然なお産に立ち会いました

助産研究科 教育課程の特色

- ①少人数教育によるセミナー
- ②教員と院生、または院生同士の双向教育
- ③量・質ともに充実した病院・助産院への実習・インターンシップ
- ④エビデンス(実践知・証拠・根拠)に基づく実践能力を育成するため、臨床での実践例を多く活用
- ⑤メンターシップとブリセプターシップによる教育

***1 メンターシップ**……メンターとは「よき助言者」を意味します。入学時から院生一人ひとりにメンターとなる専任教員がつき、院生の専門職者としての成長をサポートし、公私ともに相談役を引き受けます。

***2 ブリセプターシップ**……「メンターシップ」と活動が似ていますが、助産師としての実践的役割が最も求められる「臨床実習期間中」に限定されます。優れた実務経験を持つ臨床指導者・実習指導教員・専任教員が、助産師の役割モデルとなり、院生が助産師としてのアイデンティティ形成や役割取得ができるための支援を行います。

さらに詳しく知りたい方は本学ホームページ
http://www.tenshi.ac.jp/grad_mw_index.html
をご覧ください



ジョイス・トンプソン教授による講義

教員が24時間体制で院生を支援
長期の臨床実習、24時間オンコール、慣れない助産院への長期滞在は、今日の院生には「きつい」実習でもありました。1年生に対しては特に、実習病院に教員(ブリセプター)が出勤し、必要とあれば24時間体制で分娩に立ち会い、個々の院生に継続して関わって、臨床での学習や生活・健康状態を支援しました。分娩10例を終えて助産院での実習に臨んだ2年生に対しては、「やっぱり、他とは違いますね」との声も助産院で関わって、臨床での学習や生活・健康状態を支援しました。分娩10例を終えて助産院にて、日本の助産師活動から、世界へと広がっています。

助産教育
について

大学院助産研究科修了にあたって

24時間助産と向き合った日々
でももっと学びたい

大学院助産研究科2年 石崎 舞



た考えしか答えることができなかつた入学当初。でも今は、院生一人ひとりが助産師といふ専門職に対する自分なりの考え方と、会後の自分のビジョンを明確に持つてゐるのではないかと思います。

時間明かりが灯り、実習中は呼び出し用の携帯電話におびえながら記録をまとめました。疲労困ぱいでパソコン前に突っ伏す姿もちらほら。そんな中で、仲間と支え支えられ……という熱いドラマが繰り広げられました。

日本初の助産師養成のための専門職大
学院1回生」と
いうありがたい
枕ごとに寄り
かかるこことな
く、一人の助産師
として、女性と
して注目され
ようには活躍して
いきたいと考え
ていますし、自
分の今後がとて
も楽しみです。

お産でやっていること
お産でやっていることは、お産中の健康面を行
うことです。
お産でお産前に人間してお産をします。
お産して人間してお産をします。
お産でお産が少しむずかしい方、乳房が
痛んでお産などへの負担マサージを行
います。
お産でお産相談、産後相談、更年期相談

助産師としてプレゼンテーション能力も磨きました

2. 1. 女性を尊重し、寄り添える助産師であること
2. 自立して助産診断し、診断したことを
伝えられること

たすのか、さまざま人々が関心を持って
いることでしょう。しかし、当大学院の修了生
のカラーは、もう少し歴史を積まないと
見えてこないかもしれません。とはいって
の大学院で行ってきた教育の中で、次のよ
うなことは確実に学んだのではないかと思
います。

形成していく上で大切な事ですハーツ程のように助産師の中核にすえられる事です。どのようなパンになるかはこれから院生さんが歩む環境により、多様なものになっていくことでしょう。

聖書に「種をまく人」のたどえがあります。農夫のまいた種は、肥沃な土に、道端に、石地に、鳥に食べられたりといろいろな環境に散ります。環境は他者が作るものばかりとは限りません。自分自身も環境です。卒業はスタートラインです。これから歩みの中で「本当の学び」をされること期待しています。

インターナシップを終えて

生活中での自然なお見ることができました

助産研究科2年
烟中 身和子
大学院



病院での実習しか経験のなかつた私に
とつて、助産院での7週間の実習は、大変な
がらも毎日新鮮で、とても充実した貴重な
時間となりました。

助産院の朝は掃除から始まります。そし

演、勉強会など毎日幅広い活動をしていました。私もそれに同行させてもらい、助産

す。産婦さんが助産院に入院されると、最初はお母さんと赤ちゃんの様子を観察し、

活の中での自然なお産を
えることができました

学院

産研究科2年

畠中 身和子



A photograph showing a woman in a pink long-sleeved shirt and dark pants assisting another woman who is lying in a hospital bed. The woman in pink is holding the hand of the patient, who is wearing a black top and blue pants. In the background, a medical professional in a pink t-shirt with a red heart logo is seated at a desk. The setting appears to be a hospital room.

病院を中心
順調に内定しています

大学院の就職状況

順調に内定しています

大学院助産研究科
修了生に期待すること

多様な環境へ歩み出る、
ここからが「本当の学び」

方學附錄研究和教學 楊曉 真知二

3. 妊娠・出産・産褥・新生兒期を連續した プロセスニシニシニ、アフター二

院生が学んだこととはだくやるあると聞

ますが、この3つは、日本の助産師に欠けている点であり、助産師としての専門性を形成していく上で大切な事です。パン種のようにならうに助産師の中核にすえられる事です。このようなパンになるかは、これから院生さんが歩む環境により、多様なものになっていくことでしょう。

聖書に「種をまくる人」のたどえがあります。農夫のまいた種は、肥沃な土に、道端に、石地に、鳥に食べられたりといいろいろな環境に散ります。環境は他者が作るものばかりとは限りません。自分自身も環境で学ぶ。卒業はスタートラインです。これから歩みの中で「本当の学び」をされること期待しています。



どうして「宗教行事」は学生にとって大切な体験なのか?

聖書のみ言葉を聞いて、あなたの心を豊かにして下さい
申込：言葉を斗番手アソブ

身体的・精神的・靈的な「一」ア
ベトを満たすことが必要です
21世紀の若者は「見える」と信じる「見る」と

の「ヒーリング・チャン」のマジン・ノサンはそのことわざを思ひながら「Material Girl=物質的な女性」とこの曲を作ったのだ。といつて現代の若者は、見えるものだけを信じるようになつたのでしきつ。そこには3つの要因があるよう思います。

的な生活を自由に選ぶことができるようになりました。「二つ目は150年前に起つたヨーロッパの「啓蒙主義の思想」です。啓蒙主義の思想により科学的・理性的な思考が広まりましたが、見て見たり証明したりできない「宗教的な神秘」に対して、しっかりと目が向けられなくなりました。三つ目は「経済的な進歩」です。人々は、経済水準が上がるにつれ、自分の欲望を満たすために食べるもの、着るもの、遊ぶもの、または性的なものに時間とお金を使ふようになります。そうすることで、人間の身体的、精神的なニーズを満足させることはできましたが、もう一つの「靈的な」ニーズを満たすことはできませんでした。最近の天使大学院の入学生は、これら三つの影響を少なからず受けています。だからこそ、「靈的なニーズを満たし、自らの人間性を大きく成長させる機会として「クリスマスの集い」や「イースター」の集い等は大切なのです。完全

たちは人間の弱さを助けるために祈ること、そしてそれにより神様が生き返る力を学びます。イエス様の苦しい時、友達のヨハネ、弟子、マグダラのマリア、母マリア様、すべての者が彼のそばで祈り、支えました。こうした祈りを通して、神様に「靈的なサポート」をお願いしました。そして神様の指導で苦しみを乗り越え、イエス様はご復活することができます。世界の苦しんでいる方々のために愛をもつて

聖書のみ言葉を通して、イエス様の命は両親であるヨセフ様とマリア様へのプレゼントだつたことを知ります。ヨセフ様とマリア様は科學では証明できないハーフーリングを信じたので、イエス様の誕生に喜びました。また、ヨゼフ様とマリア様は庶民として生活していましたが、自分たちの満足よりも息子イエス様を安全に育てることを優先し、そのためにつくさんの「愛の犠牲」を払いました。

神父の専きのものと行き交い、
たゞ降誕ミサでは、引き
綿まつた空氣のなかで静か
に自らと向き合う学生の姿
が印象的でした。ケン神
父のお話の途中、ジョン・レ
ノンが歌う「イマジン」を
聴きながら黙想する時間
が設けられ、「平和とは何か、愛とは何か」を深く考
えるよい機会となりました。

クリスマスの集い
2005年12月15日(木)、
本学体育館においてクリスマスの集いが行われました。
12月5日から15日まで、朝と晩にクリスマスキャロルが校舎に流れされ、
学生たちがクリスマスの近づきを意識していたよ
うでした。アーチン(アーチン)

クリスマスの集い

「クリスマスの集い」は
自らを振り返る時間
与えてくれました

看護学科1年 原 文惠



2005年8月31日(水)にマリア様の点灯式が
12月2日(金)にクリスマスツリーの点灯式が
それぞれ行われました。

クリスマスツリーの点灯式

2004年に大学院創設記念樹として天使病院からいただいた「松の木」には、クリスマスに向けて「待降節」が始まると毎年きれいなイルミネーションが施されます。今年もその点灯式が行われ、寒空の下に学生、教職員が集まって、今年初めての点灯を見守りました。お祝いの歌^{ゲン}神父による祝別の後、イルミネーションのスイッチが入れられ、キャンドルを持つた学生たちが見つめるなか、色とりどりの光が暗闇に映えました。

かねてから校庭で学生を見守ってこちら
たマリア像を日々見守りながらも見ること
ができるようになつた。そんなケン・神父の
願いを受取、財務課の職員が光の方向、電源
の場所などを試行錯誤。かくてマリア様
は美しくライトアップされこれを記念して
ケン・神父によるささやかな点灯式が行われ
らし出されたマリア様を見て、学生たちか
らは「きれい!」と歓声があがっていました。

2005年8月31日(水)にマリア様の点灯式が、
12月2日(金)にクリスマスツリーの点灯式が

それぞれ行われました。

ア像を曰
ねてから校
所などとを試
しくトイア
を受け、財務
の神父による
た。学生20余
出されたマ
きれい！」と
ススマツリ
004年にセ
院からいた
スに向けた
なイルミネ
その点灯式
員が集まっ
ました。お祝
後、「イルミネ
キャランドル。
ながく色どい

庭で学生を見守ってこられなかるでからも見ることしたい。そんなケン・神父の講の職員が光の方向、電源行錯誤、かくしてマリア様のスイッチされ、これを記念してさやかなる点灯式が行われ名を見守るなか、暗闇に照りア様を見て、学生たちかと歓声があがっていました。

宗教行事ごとに配られる缶バッジ
ケン神父はさまざま
な宗教行事のた
びに、学生・教職員
全員に対しても缶
バッジをプレゼン
トしてくださいま
す。バッジを身につけることで、その宗教
行事を意識し、その意味を各自で確認し
てもらいたいという、ささやかな気持ち
の表れのようです。「ちょっとしたキヤン
ベーン活動です（ケン神父）。かわいらし
いデザインも好評で、みんなが身につける
ことで大学全体の一体感が生まれます。

天使大学で行われる主な宗教行事

內容

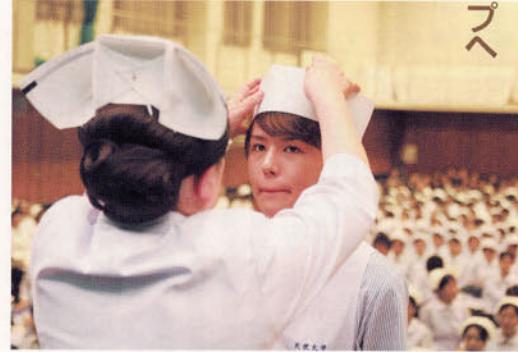
時期	行事名	内容
4月	イースターの集い	イースター(復活祭)は、十字架上で死なれたキリストが3日目によみがえった復活を記念する行事で、キリスト教すべての祝祭日の中心をなすものです 新入生が初めて触れるミサであり、全学をあけてお祝いします。
5月	マリア様の戴冠式	5月は「聖母月」といわれ、全人類の母と呼ばれるキリストの母、聖母マリアをたたえる月です。「母の日」もこの月にあります。ミサの後、学内にある全てのマリア像にケン神父お手製の花かんむりが掛けられます。
6月	天使祭でのミサ	天使祭が無事に行われること、天使大学・大学院の平和を願って天使祭当日に行われるミサです。また、卒業生や学生のご父母、一般の来場者もミサにあずかれるように歓迎します。
11月	死者のためのミサ	11月は死者のために祈る月であり、諸聖人の祭日(11月1日)の翌日にすべての死者のためにミサを捧げます。 この1年間に亡くなった学生のご家族や教職員およびそのご家族、天使大学関係者の方々の冥福を祈ります。
11月最後の日曜日	待降節クリスマスツリー点灯式	カトリックでは、クリスマス(降誕祭)の4週前の日曜日から、クリスマスを準備する期間とされ、この期間を「待降節」と呼んでいます。 待降節に入った日から、校舎のクリスマスツリーにイルミネーションが点灯され、キリストの誕生の場面を再現した馬小屋を設置するなど、クリスマスを迎える準備を整えます。
12月	クリスマスの集い	クリスマス(降誕祭)は、キリストの生誕を祝う重要な祝日です。全学生と教職員が一堂に会し、クリスマスミサを行います。主のご降誕を感謝と賛美のうちに盛大に祝い、喜びを分かち合います。
2月～3月	四旬節灰の水曜日	復活祭前の準備期間を「四旬節」と呼びます。これは、キリストが33歳で宣教生活に入られる前に、荒れ野に退き、40日間、祈りと断食を行ったことにならったものです。四旬節の最初の水曜日(灰の水曜日)に、心回しとใจのわざを促すとしてケン神父より、ひたむいて灰で十字のしるしをいただく儀式を行います。
3月	卒業・修了感謝のミサ	卒業式・修了式の前日に、多くの方々の支え、励ましによって、学生生活を無事に過ごせたことへの感謝を捧げるミサを行います。このミサを通して、卒業生・修了生は未来への希望を持って、社会人としての出発の決心を新たにします。

卒業式・修了式の前日に、多くの方々の支え、励ましによって、学生生活を無事に過ごせたことへの感謝を捧げるミサを行います。このミサを通して、卒業生・修了生は未来への希望を持って、社会人としての出発の決心を新たにします。

秋風が冷たさを増した2005年11月25日(金)、本学体育館において「命へのまなざし—感動の左手 右手マヒからの復帰—」と題した、ピアノコンサートが開かれました。館野泉さんのコンサートには、多くの看護学科の学生だけでなく、栄養学科の学生、教職員、そして多くの一般市民も含めた約450名が集い、美しい調べに耳を傾けました。

三角巾からナースキップへ

緊張した面持ちで入場してきた看護学科2年生は校歌を合唱したあと、近藤潤子学長、来賓であるシスター・桜野登美子様のお言葉に耳を傾けました。キャンドルサービスでは、真っ暗な体育館を戴帽生の持つロウソクの炎だけが辺りを照らし、ほの見える学生の表情は希望と決意に満ちていました。壇上に戴帽生全員が集合したあと、声を合わせて誓いの言葉を述べ、今まで支えてくれた家族、友達、教員、実習先の方々に感謝の気持ちを伝えました。会場には2年生のご家族も多く訪れ、ナースキャップを冠するまでに成長した戴帽生の姿に目を細めいました。また、祝歌として在校生が歌った「ハーレルヤ」には、「感動して鳥肌が立った」との声も聞かれました。



愛をもつて看護に取り組む決意をしました

看護学科2年 大高 優紀



「誓い」の言葉の文面は、2年生全員で意見を出し合い完成させたものでした。私はこの「誓いの言葉」でこれから出会う患者さんへ愛をもつて看護するという新たな決意をもつことができたと思います。3年生では、今後さらに実習などを通じて、今までにない困難なことや不安なこともあります。しかし友人との協力や先生方の力を借り立て乗り越えていきたいと思います。

卒業か
業を
む

笑顔を絶やさず前を向いて

看護学科4年 牧 奈美恵



「誓い」の言葉の文面は、2年生全員で意見を出し合い完成させたものでした。私はこの「誓いの言葉」でこれから出会う患者さんへ愛をもつて看護するという新たな決意をもつことができたと思います。3年生では、今後さらに実習などを通じて、今までにない困難なことや不安なこともあります。しかし友人との協力や先生方の力を借り立て乗り越えていきたいと思います。

**自分の生き方を
貫く姿に感動しました**

看護学科3年 森 厚子



「誓い」の言葉の文面は、2年生全員で意見を出し合い完成させたものでした。私はこの「誓いの言葉」でこれから出会う患者さんへ愛をもつて看護するという新たな決意をもつことができたと思います。3年生では、今後さらに実習などを通じて、今までにない困難なことや不安なこともあります。しかし友人との協力や先生方の力を借り立て乗り越えていきたいと思います。

2005年11月21日(月)、本学体育館において「命へのまなざし—感動の左手 右手マヒからの復帰—」と題した、ピアノコンサートが開かれました。看護学科の学生だけでなく、栄養学科の学生、教職員、そして多くの一般市民も含めた約450名が集い、美しい調べに耳を傾けました。

突然の脳梗塞により右手に残ったまひ

「コンサートは「講演」と「演奏」の2部構成になつていて、館野さんはまず、発病されたときのことを穂やかな口調で語り始めました。〔フィンランドのタンベレという町で演奏会をしていたとき、最後の曲の残り3ページ目で突然右手だけが遅れ始めました。おかしいなと思つているうちにどんどん動かなくなり、弾き終えたときは左手一本という状態でした。そして椅子から立ち上がり、歩数歩あるいたところそのまま倒れてしまつたんです。」

その「コースはすぐに日本にも伝わり、「館野さん、再起不能」の文字が躍りました。病院からは「脳梗塞」と診断され、右手はおろか歩くこともままならず、頭も動かず、感情の幅も狭い。そんな状況でも音楽から離れるという選択肢はまったくなかつたと館野さんは言います。音楽は「呼吸」と同じで、それがなければ生きていけないもの、あって当たり前のものです。ただ、演奏家として活動を続けられるのは難しい問題でした。すでにピアニストとして功なり名とけた館野さんに対する医師の中には「65歳なんだからもうピアノはあきらめでやめてしまつたんです」とあります。

長くつらいリハビリの甲斐もあり、右手は上がるようになり、指も動くようになりました。それで赤ちゃんがヨコヨコ歩きしているようなもの」にすぎず、復帰の道は困難なつかりたつたです。



◆館野泉(たのいづみ) 1936年東京生まれ。1960年東京芸術大学を首席で卒業。1964年よりヘルシンキに移住。1981年以後、フィンランドの政府から終身芸術家賞を受け、演奏生活を専念し、今日にいたる。多くの人々が高く、クラシックとしては珍しいファンクラブが後の活動を支援する。

きかけは長男がプレゼントしてくれた楽譜「ある日、シカゴに留学していた長男が私に楽譜を持ってきてくれました。それはイギリスの作曲家が書いた、左手だけで弾けるピアノ曲でした。「弾いてみなよ」と言われると意固地になる私の性格を知つていて、息子は、私のピアノの上にそつとその楽譜を置いてくれました。そのとき初めて気づきました。必ずしも両手で弾く必要はないのではないか」と。片手で奏てる音楽によつて、世界とつながることができるかも知れない、音楽の力を伝えることができるかも知れない」。そうした思いの転換が、再び館野さんに希望を与え、左手一本による演奏活動をスタートさせました。

2005年10月17日(月)、フード
& ライフ ステップアップセレモニー

か挙行されました。この式典は、栄養学科2年生が入学時に抱いていた夢や希望など、自らの原点を見つめ直す機会として、昨年度から始められたものです。98名の2年生は、引き締まった表情でそれぞれの思いを確認しこれからの学びに対し気持ちを新たにしました。

自らの原点を見つめ直す機会

管理栄養士合格までの長い道のりを乗り越えるため、その良きターニングポイントになるよう立ちはだかりました。

また表情でそれぞれの思いを確認しこれからの学びに対し気持ちを新たにしました。学科2年生が入学時に抱いていた夢や希望など、自らの原点を見つめ直す機会として、昨年度から始められたものです。98名の2年生は、引き締めた表情でそれぞれの思いを確認しこれからの学びに対し気持ちを新たにしました。

「人の役に立ちたい」
という初心に戻りました

栄養学科2年 荒井 早希



昨年度から行われている「フード&ライフ ステップアップセレモニー」は私たち栄養学科2年生にとって、入学式以来多くの式典でした。大学生ともなると、学生ひとりのために名前を呼んでいただけの機会はなかなかないので、呼ばれて壇上へあがる時はとても緊張しました。

式典の中でも印象的だったのは、「管理栄

養士は時給いこうという単位で働くのではなく、持っている知識と技術で相手のために働く職業だ」という近藤学長からのお話を聞きました。

私は管理栄養士に魅力を感じ、この職業

一年半が経て、大学生生活にもすこし慣れました。しかし、その反面、2年後期の食経営管理論実習に精いっぱい目前の課題にうんざり……といふ時期だったのです。学長の言葉に正直に心地悪かったです。私が管理栄養士に魅力を感じたのも誰かの役に立てるといいな、と思ったからです。時給ではなく、相手をかいだ初めて成り立つ職業なのだと改めて認識しました。初心に戻って考え直す機会を持つことができてよかったです。くじけそうになった時は「このセレモニーで感じたことを思い出してこれからも頑張ろう」と思いました。

タウン
トーク

2005年7月28日(木)、サッポロさとうらんどのテラスで

おいて「東区タウントーク(あなたの街で市長と語ろう!)」が行われました。今回のテーマは「食について語ろう!」地域で食育を進めていこう。東区の栄養学科を持つ大学といつながらもあり、本学から西村直樹くん(栄養学科4年)

がパネルディスカッションのパネリストとして参加し、上田文雄札幌市長らと肩を並べて自らの「食育」についての思いを語りました。また、タウントーク全体の総合司会を松臺な子さん(栄養学科4年)が務め、落ち

着いた話しぶりで会の進行をしっかりとリードしました。他にも数名の栄養学科の学生が受付・案内等のボランティアとして参加し、タウントークの運営を陰から支えました。

管理栄養士を目指す学生が「食育」推進のためにできる」と

前日からの雨にもかかわらず、参加者は190名にものぼり、市民の「食育」に対する関心の高さをうかがわせました。上田市長のあいさつで幕を開けたタウントークは、松臺さんの落ち着いた司会進行により、順調にパネルディスカッションへと移りました。パネルディスカッションのコーディネーターは本学栄養学科の高野良子助教授が務め、パネリストとして、上田市長、西村くんの他にも、本学栄養学科の小林良子教授ら3名が参加しました。

管理栄養士の卵たちがハントンチして、食べる楽しさ、料理する楽しさ、北海道産の食物の素晴らしさを伝える。子どもの食育のためには、大がかりなPR活動や行事よりも、こうした子どもと同じ目線で、自分の役に立てるといいな、と思った

ところです。しかし、できる限り分かりやすく、コンパクトにまとめて伝えるよう心かけました。

「このタウントークを通じて、地域における食育に少しでも貢献できたならうれしいです」と語る西村くん。こうした思いが、後輩にも受け継がれていくべきと思いました。私は玉ねぎの由来を調べてみて、古代エジプトのピラミッドを作った人たちがスタミナ源として食べていたということを知りました。みなさんは知っていますか? 玉ねぎはそんな大昔から食べられてきたのですね。このように原稿を作成していく中で、新しいことを発見できる楽しみや、勉強になることをたくさんありました。

西村くんの落ち着いた司会進行により、順調にパネルディスカッションへと移りました。パネルディスカッションのコーディネーターは本学栄養学科の高野良子助教授が務め、パネリストとして、上田市長、西村くんの他にも、本学栄養学科の小林良子教授ら3名が参加しました。

管理栄養士の卵たちがハントンチして、食べる楽しさ、料理する楽しさ、北海道産の食物の素晴らしさを伝える。子どもの食育のためには、大がかりなPR活動や行事よりも、こうした子どもと同じ目線で、自分の役に立てるといいな、と思ったところです。しかし、できる限り分かりやすく、コンパクトにまとめて伝えるよう心かけました。

「このタウントークを通じて、地域における食育に少しでも貢献できたならうれしいです」と語る西村くん。こうした思いが、後輩にも受け継がれていくべきと思いました。私は玉ねぎの由来を

調べてみて、古代エジプトのピラミッドを作った人たちがスタミナ源として食べていたということを知りました。みなさんは知っていますか? 玉ねぎはそんな大昔から食べられてきたのですね。このように原稿を作成していく中で、新しいことを発見できる楽しみや、勉強になることをたくさんありました。

西村くんの落ち着いた司会進行により、順調にパネルディスカッションへと移りました。パネルディスカッションのコーディネーターは本学栄養学科の高野良子助教授が務め、パネリストとして、上田市長、西村くんの他にも、本学栄養学科の小林良子教授ら3名が参加しました。

管理栄養士の卵たちがハントンチして、食べる楽しさ、料理する楽しさ、北海道産の食物の素晴らしさを伝える。子どもの食育のためには、大がかりなPR活動や行事よりも、こうした子どもと同じ目線で、自分の役に立てるといいな、と思ったところです。しかし、できる限り分かりやすく、コンパクトにまとめて伝えるよう心かけました。

「このタウントークを通じて、地域における食育に少しでも貢献できたならうれしいです」と語る西村くん。こうした思いが、後輩にも受け継がれていくべきと思いました。私は玉ねぎの由来を

市民の「食育」に対する関心の高さを感じました

栄養学科4年 松臺 なな子
パネルディスカッションのコーディネーター役を務められた高野先生から総合司会のお話をいただき、自分自身も「食育」について興味があつたため参加させていただきました。

(写真提供:東区総務企画課)

当日は予想以上に多くの方々が参加してくれたり、市民の食育に対する関心の高さを感じました。上田市長をはじめ、大学教授や料理研究家、学生などさまざまな視点から食育についてのお話をうかがい、直接参加者からたのひつの具体案として、教師を目指す学生など

ことになりました。

西村くんは、「食育」と「子どもと接する」と、「ボランティア」をうまく融合できなかっただけで、食育について考えた。そのひとつ具体的な実例として、教師を目指す学生と

管理栄養士を目指す学生が協力して、地域の子どもたちと小さな「ミニコディナー」を作ることを考えてい

ました。たとえば土曜日に子どもたちを集めて、教

師の卵たちが勉強を教えるそしてお昼になると

卒業までたくさんの出会いに感謝してます

栄養学科4年 佐藤 歩



天使大学での4年間は私にとって、なんとも言えない重要な通過点であつた。今卒業を目の前に思っています。本学では、管理栄養士に必要な技術や知識を習得するための学びはもちろんですが、人間性についても学ぶ事ができました。特に、人に対して自分がどうあるべきかを考えさせられる機会が多くありました。それは数多くの行事の時だけでなく、普段の学校生活の中でもあります。協調性や助け合いを大切にする校風は先生方や友達にも根付いていて、常に見習うべき見本が周囲にあつたように思います。そのような人たちは、当惑の4年間はいつも居心地がよく、多くの場面で支えられました。本当に感謝です。日々何かと悩んだり、辛いことを仲間と乗組り越えていたる機会が多かつたおかげで、今は自分自身や自分の考え方に対する自信になりました。天使大学で4年間を過ごし、多くの人たちと出会うことができた事を幸せに思っています。

北の食物研究所所長、栄養学科3年 川尻 明子

2005年8月にホクレンから発行された「北海道やさいbook」には、本学北の食物研究所が製作協力として、栄養学科の荒川義人教授が監修として関わっています。野菜を摂取することの大切さ、道産の野菜の素晴らしさを伝えるために、北の食物研究所はみんなで力を合わせて文献収集、原稿執筆、レシピの作成に取り組みました。

北の食物研究所所長、栄養学科3年 川尻 明子

2005年5月、ある冊子の原稿依頼で、今回「旬の葉茎類」のバナーを紹介しようとコンセプトのもとに製作することになりました。それは、ホクレンさんが企画した北海道の多くの冊子の制作に携わることができる喜びとの、このような大役を無事にこなせるだろうかという不安な気持ちでいっぱいでした。原稿の作成期間が1ヶ月ほどしかなかったので、部員全員で役割を分担して、すぐに作

卒業までたくさんの出会いに感謝してます

栄養学科4年 佐藤 歩

北の食物研究所所長、栄養学科3年 川尻 明子

2005年8月にホクレンから発行された「北海道やさいbook」には、本学北の食物研究所が製作協力として、栄養学科の荒川義人教授が監修として関わっています。野菜を摂取することの大切さ、道産の野菜の素晴らしさを伝えるために、北の食物研究所はみんなで力を合わせて文献収集、原稿執筆、レシピの作成に取り組みました。

北の食物研究所所長、栄養学科3年 川尻 明子

2005年5月、ある冊子の原稿依頼で、今回「旬の葉茎類」のバナーを紹介しようとコンセプトのもとに製作することになりました。それは、ホクレンさんが企画した北海道の多くの冊子の制作に携わることができる喜びとの、このような不安な気持ちでいっぱいでした。原稿の作成期間が1ヶ月ほどしかなかったので、部員全員で役割を分担して、すぐに作

天使大学1回生が社会で力を発揮しています！

2004年3月に卒業した天使大学看護栄養学部1回生。本学を卒立つてちょうど2年が経ち、仕事に対する自信も芽生え、充実感とともに職務に汗を流しているようです。そんな本学OGの方々に近況をうかがいました。たゞまざまな場で、さまざまな業務に取り組んでいる看護・栄養両学科OG8名の声をお聞きください。

看護学科OG

栄養学科OG

患者さんから人として生きる姿勢を教わっています



新田 彩子さん 看護部

「病院の心臓血管外科、眼科混合病棟で看護を行っています。看護を提供する立場ですが、人生の先輩である患者さんから、人としての生きる姿勢を学ぶ機会が多くあります。また、検査入院をされた患者さんと数ヶ月ぶりに再会し、元気な日常生活を送っている姿を確認できた時、看護師としてやりがいを感じます。天使大学から学んだ事をよく考え振り返る習慣、相手のよさや強みを大切に思いそれを尊重していく心は、社会に出てからもう私の力となっています」

ターミナルケアに責任とやりがいを感じています



山口 葵さん 看護部

「病院の外科病棟で、主に乳がんの患者さんの周術期看護や末期がん看護を行っています。看護を提供する立場ですが、人生の先輩である患者さんから、人としての生きる姿勢を学ぶ機会が多くあります。また、検査入院をされた患者さんと数ヶ月ぶりに再会し、元気な日常生活を送っている姿を確認できた時、看護師としてやりがいを感じます。天使大学から学んだ事をよく考え振り返る習慣、相手のよさや強みを大切に思いそれを尊重していく心は、社会に出てからもう私の力となっています」

「思いやりの心」が看護に向かわせる原動力です



木村 志乃さん 看護部

「がんセンターの泌尿器・整形外科の混合病棟で看護にあたっています。私は泌尿器科のチームに属し、幅広く抗がん剤治療や放射線治療、ターミナルケアなどを実施しています。患者さんと、辛い治療告知の悲しみなどを共有することはやはりつらいですが、しっかりと心を寄り添わせることで、患者さんは私たちに希望や感謝を表現してくださいます。患者さんと向き合って、天使から教えられた思いやりの心は私の助けとなっていましたし、看護に向かわせる原動力となっています。患者さんから白衣の天使」というお言葉をいたずらにあります。天使で学んだからこそある自分の姿なんだなと感じています」

社会に出でからも大学時代の友人に助けられています



小畠 弥生さん 保健師

「保健師として、精神に障害を持った方が地域において生活やすいように、家庭訪問・相談などを通して支援しています。また、そのような方の社会復帰のために手伝いや、ご家族のサポートも行っています。ケアを必要とする方の個性は多様なので、その個人に合わせた関わり方で、患者さんや指導者との関わり方で、権利意識作法を学んだところから、自分の姿なんだなと感じています」

北海道立保健福祉部 潘川地区保健課

保健課課長

精神保健福祉係

社会において生

活しやすいように

調を崩さないように、家庭訪問・相談などを通して支援しています。また、そのような方の社会復帰のために手伝いや、ご家族のサポートも行っています。ケアを必要とする方の個性は多様なので、その個人に合わせた関わり方で、患者さんや指導者との関わり方で、権利意識作法を学んだところから、自分の姿なんだなと感じています」

学生時代の美習で患者さんや指導者との関わり方で、権利意識作法を学んだところから、自分の姿なんだなと感じています」

か、今に役立っています。そして天使で出会った大切な友には、社会に出てから何度も助けられています」

から何度も助けられています」

か、今に役立っています。そして天使で

出会った大切な友には、社会に出て

牛乳・乳製品利用料理コンクール北海道大会

**佐藤ひとみさん、北海道教委員会教育長賞
(全道2位)を受賞!**

2005年10月7日(金)、札幌市男女共同参画センターにおいて「第26回牛乳・乳製品利用料理コンクール北海道大会」(主催:北海道牛乳普及協会、ホクレン)が行われました。当コンクールは、日本人に不足しがちなカルシウムを多く含む「牛乳・乳製品」を料理に利用し、さらに豊かな食生活を送つてもらうことを目的に毎年開かれています。本学からも、授業の一環として栄養学科1年生が応募し、書類審査を通過した佐藤ひとみさん(金野ゆみさん、竹内理沙子さん)とともに栄養学科1年の3名が北海道大会に出場しました。厳しい実演審査の結果、金野さん、竹内さんが優良賞に、佐藤さんが大会第2位となる北海道教委員会教育長賞に輝きました。

粒つとおいしいフルーツブランジエ

ができるまで

「生クリームご飯の組み合わせはおもしろいですね。」

コンクールでの実演調理中、テレビでもおなじみの料理研究家、星澤幸子審査員にそう話しかけられました。驚いた佐藤さんに、星澤先生は丁寧に生クリームの溶き方を教えてくれました。受賞の決め手ともなったこのアイデアは、普段の生活の何気ないところから生まれたようです。

「私の父はちょっと変わっていて、ご飯に牛乳をかけて食べるんです。『夏はこれに限る』って言ひながら(笑)。ある日私も試してみたら、それが驚くほどおいしくなくて……。でもどうにかしておいしくならないかなと試行錯誤を重ねた結果砂糖と生クリームを加えることで味が整いました。これが今回のレシピの元になっています」

粒つとおいしい フルーツブランジエ

材料(4人分) 調理時間50分

水	40ml
粉ゼラチン	8g
ご飯	60g
牛乳	250ml
グラニュー糖	50g
バニラエッセンス	少々
生クリーム	100ml

【飾り】
キウイ
フルーベリー
コーンフレーク
ストロベリーソース90g

- 作り方
1. 水に粉ゼラチンを入れ、ふやかす。
 2. ご飯と牛乳を合わせてミキサーにかける。
 3. ②を鍋に移し、グラニュー糖を加えて火にかける。
 4. 火を止め、①を加え、余熱で溶かす。
 5. 生クリームは、氷で冷やしながらとろりとするまで泡立てる。
 6. ④と⑤を合わせ、とろみがつくまで冷やす。
 7. 型を水でぬらし、⑥を流し入れ、冷蔵庫で約20分冷やし固める。
 8. ⑦を器に盛り付け、一口大に切ったキウイとブルーベリーを添える。
 9. ストロベリーソースをかけ、上にコーンフレークをのせる。

ポイント
ご飯と牛乳をミキサーにかける時、ご飯の粒々の食感を残してください。

栄養学科の授業でこのコンクールへの応募が課題となり、まずは書類審査のための案を練りました。書類審査で求められたのはレシピ、ネーミングとその完成図。完成図は、山口敦子助教授の「色彩感覚を大切にして」との言葉を念頭におき、食欲がわくような色使いをイメージしながら色鉛筆で仕上げました。母親の影響で、小学校のときからお菓子作りが大好きだった佐藤さん。しかし「この時点では、自分が本大会へ進めるという手応えも自信もありませんでした。『書類審査を通ったと聞いたときは、本当にびっくりしました。そこでから試作品を5・6回作って、本番に備えました』



優良賞
とろーりクリームのつつみ焼き & きな粉マシュマロのパリパリ焼き

あなたの声をお聞かせください
天主大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。
ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、ぜひとも下記あて先までお寄せください。

あて先

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天主大学広報委員会 学報チーム tel 011-741-1051 fax 011-741-1077



天主大学

看護栄養学部／看護学科・栄養学科
大学院／看護栄養学研究科(2006年4月開校)
助産研究科(専門職学位課程)

第11号 2006年3月15日 発行 天主大学広報委員会 年2回発行(9月、3月)

<http://www.tenshi.ac.jp>



(写真提供:北海道牛乳普及協会)

いろいろ
アイデア料理に驚きました
栄養学科1年 金野 ゆみ



優良賞 鮭玄米のミルク茶漬け

牛乳・乳製品利用料理コンクールに応募して、書類審査で選ばれたときは本当に驚きました。コンクールの日までに何度も練習し、盛り付けや手順を考え直したりして準備しました。当日会場に行き、「エレベーターに乗ると、星澤先生も後ろに乗っていたので、とてもびっくりしました。先生は、場所がわかつてうろついていた私に声をかけてください、とてもやさしい方でした。

コンクールには主婦の方や、高校生などいろいろな人が出場していて、みんな一生懸命作っていました。牛乳を固めたり、ソースにしたり私は思いつかないような料理がたくさんあって、試食するとどれもおいしかったです。私は優良賞をいただき、自信になると同時にいい経験となりました。

先生は、場所がわかつてうろついていた私に声をかけてください、とてもやさしい方でした。

「受賞の瞬間は『うれしい』というよりも『私でいいの?』という戸惑いの方が大きかったですね。ぼやっとしてしまって、審査員からの言葉あまり覚えていません(笑)」

それでも応募総数50の点からの快挙。今回の受賞は佐藤さんにとって大きな自信になつたはずです。

「ええ特にそんなことは……(笑)。でも、大変な実技テストで前より緊張しなくなりました。大きな舞台で場慣れしたおかげかもします」

佐藤さんは「マフィンやホールケーキを作るのが得意。その他にもエレクトーンを弾くのが趣味で、高校時代はオリジナル曲を作っていたほどの腕前。最近は大学の勉強に全力投球で、工科学の向こう時間が少なくなった。おいしいお店を探すのも大好きで、最近では足湯をしたまま食事を楽しめる祭典の『さいさい』があおスマス、栄養学科1年。室蘭栄高校出身。

来年もう一度 チャレンジしたいです!

栄養学科1年 竹内 理沙子



優良賞

牛乳・乳製品利用料理コンクールの北海道大会に出場して、本当におもしろい体験をさせてもらいました。私の料理は、ホワイトソース・ご飯・きな粉ペーストとマッシュマロを春巻の皮で包んでオーブントースターで焼くというものです。まさか私のレシピが書類選考通り、北海道大会に出られるとは思っていなかつたので、聞かされたときとても驚きました!私は何事にもマイペースなので、当日実演するとき、制限時間内にちゃんとできるかがとても心配でした。でもそれ以上に、他の人はどんな料理を作るのか、そしてそれを試食できることがとても楽しみでした。

当日の実演はやはり少し緊張しました。それでも当日慌てないように、家で何度も練習していたので、緊張していくつままできてよかったです。他の出場者は、それぞれうまく乳製品を料理に取り入れていて、ネーミングもユニークなものはかりでおもしろいと思いました。ディスプレイ用のテーブルセッティングの仕方も、生花を飾つたりいろいろ凝ついてすごいと思いました。料理コンクールの雰囲気が大体つかめたので、それをふまえてまた新たな牛乳レシピを考え、来年もう一度チャレンジしたいと思います。